2013年3月期
決算説明会

GS Yuasa Corporation

2013年5月23日

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

GS YUASA

I-1．2013年3月期決算の概要

経営環境

国内需要は震災復興需要を反映して堅調に推移した。また昨年末の政権交代による経済・金融政策への期待感から円安・株高動向となり、年度末にかけて景気は緩やかに回復傾向へと転じた。世界経済においては、米国での景気は堅調、また中国でも景気の回復が見受けられたが、欧州における債務危機および経済情勢の悪化もあり、状況が大きく変化しながら経過した。

業績の概要

国内ではエコカーの増加や電力の全量買取制度の導入を背景に、新車用自動車電池や電源装置の販売が堅調に推移した。しかし海外では欧州での景気後退により販売が減少、またリチウムイオン電池事業では生産販売の大幅な減少ならびに生産設備の減価償却増により業績は悪化。その結果、売上高ならびに利益で減収減益となった。

I-1．2013年3月期決算の概要

（億円）

	2011年度	2012年度	増減 （対前年同期増減率）
売上高	2,854	2,745	-109 (-3.8%)
営業利益	160	98	-62 (-38.8%)
利益率	5.6%	3.6%	-2.0p
経常利益	180	123	-57 (-31.7%)
当期純利益	117	58	-59 (-50.4%)
配当	8円/株	6円/株	-2円/株

GS YUASA

I-1．2013年3月期決算

四半期損益の推移

（億円）

		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
12年度	売上高	629	646	684	786	2,745
	営業利益	14	26	24	33	98
	経常利益	19	30	32	41	123
	当期純利益	11	21	24	2	58
11年度	売上高	603	715	734	802	2,854
	営業利益	8	40	41	71	160
	経常利益	12	39	49	80	180
	当期純利益	1	23	33	60	117

GS YUASA

I-1. 2013年3月期決算

営業利益・経常利益・当期純利益

（億円）

	2011年度	2012年度	増減	主な増減要因	
営業利益	160	98	-62	①数量の変化 ②鉛価格・売価変化 ③人件費・費用増等 ④ リチウム数量減	+41 +8 -36 -75
経常利益	180	123	-57	①営業利益の減少 ②為替差益	-62 +4
当期純利益	117	58	-59	①経常利益の減少 ②減損損失 ③少数株主損失	-57 -27 +40

GS YUASA

I-1．2013年3月期決算

特別損失　減損処理

■ リチウムエナジー ジャパンにおける減損処理

- 車載用リチウムイオン電池の生産を栗東工場に集約することにより効率化を図り、競争力を強化するため、第4四半期において減損処理を行った。

  対象：　京都工場および草津工場の生産設備

  金額：　27億円

- 当該資産の有効活用

  GSユアサへの当該資産の売却

  産業用リチウムイオン電池の生産に活用

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

I-2. 2013年3月期決算

セグメント別実績

（億円）

	2011年度		2012年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
国内自動車電池	588	43	556	39	-32	-4
国内産業電池電源	685	96	724	108	+39	+12
海外	1,209	60	1,199	64	-10	+4
リチウムイオン電池	210	-33	106	-112	-104	-79
その他	162	-6	160	-1	-2	+5
合計	2,854	160	2,745	98	-109	-62

GS YUASA

I-2. 2013年3月期決算

自動車
セグメント

国内自動車電池事業

（億円）

	2011年度	2012年度	増減 （12-11年度）
売上高	588	556	-32
営業利益	43	39	-4
利益率	7.3%	7.0%	-0.3P

＜2012年度　商況＞

- アイドリングストップ車、ハイブリッド車用鉛蓄電池の販売好調
- 自動車関連部品（カーナビゲーションシステム等）の販売が減少

GS YUASA

I-2. 2013年3月期決算

産業電池電源
セグメント

国内産業電池電源事業

（億円）

	2011年度	2012年度	増減 （12-11年度）
売上高	685	724	+39
営業利益	96	108	+12
利益率	14.0%	14.9%	+0.9P

＜2012年度　商況＞

- 産業用電池電源はデータセンター向け、および通信用向けで堅調に推移
- 7月から始まった再生可能エネルギーの全量買い取り制度を受け、太陽光発電用パワーコンディショナーの販売好調

GS YUASA

I-2. 2013年3月期決算

海外
セグメント

海外事業

（億円）

	2011年度	2012年度	増減 （12-11年度）
売上高	1,209	1,199	-10
営業利益	60	64	+4
利益率	5.0%	5.3%	+0.3P

＜2012年度　商況＞

- 自動車電池・オートバイ用電池は中国においては販売を伸ばすが、欧州における販売が減少
- フォークリフト用電池は増産により売上高拡大
- 人件費等の経費は増加するも売価維持により利益を確保

GS YUASA

I-2. 2013年3月期決算

リチウムイオン電池
セグメント

リチウムイオン電池

（億円）

	2011年度	2012年度	増減 （12-11年度）
売上高	210	106	-104
営業利益	-33	-112	-79
利益率	-15.7%	-105.7%	-90P
減価償却費	40	60	+20

＜2012年度　商況＞

- 電気自動車向けリチウムイオン電池の販売が大幅に減少
- ハイブリッド車向けリチウムイオン電池はほぼ計画通りとなり堅調に推移
- PHEV用電池を11月より生産開始するも、3月に品質問題発生

GS YUASA

I-2. 2013年3月期決算

セグメント別増減益要因

（億円）

	営業利益増減（12-11年）	増減益の主な要因			
		増益要因		減益要因	
国内自動車電池	-4	• 数量の増加	+8	• 鉛価格、売価変化	-11
国内産業電池電源	+12	• 数量の増加	+27	• 鉛価格、売価変化	-14
海外	+4	• 鉛価格、売価変化 • 数量の増加	+33 +6	• 人件費及び増産による費用増等	-35
リチウムイオン電池	-79	• 電気自動車向けリチウムイオン電池販売の大幅な減少 • 減価償却費の増加			

GS YUASA

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

GS YUASA

I-3. 2013年3月期決算

貸借対照表

（億円）

	2012/3末	2013/3末	増減額		2012/3末	2013/3末	増減額
流動資産	1,367	1,287	-80	負債	1,422	1,492	+70
・売掛債権			+25	・仕入債務、設備関係債務等			-46
・有価証券			-58	LEJ※設備関係の支払に伴う債務減少			
・棚卸資産			+25	・有利子負債			+156
・経済産業省からの補助金（未収入金）			-49	リチウムイオン電池の新規設備取得			
				・リース債務			-62
				・繰延税金負債			+28
固定資産	1,417	1,617	+200	純資産	1,362	1,412	+50
・有形固定資産			+135	・利益剰余金			+25
・投資有価証券			+78	・その他有価証券評価差額金			+16
株式市況の良化				・為替換算調整勘定			+63
				・少数株主持分			-53
総資産	2,784	2,904	+120	負債・純資産	2,784	2,904	+120

※：株式会社 リチウムエナジー ジャパン

GS YUASA

I-3. 2013年3月期決算

キャッシュフロー

（億円）

営業C／F	191
・税金等調整前利益	83
・減価償却費	137
・税金等の支払	-38

投資C／F	-292
・有形固定資産の取得	-389
・補助金の受取	106

財務C／F	38
・借入金の増加	136
・リース資産買取	-51
・配当金の支払	-33

フリーC／F※
-101

現金および現金同等物の残高			
期首	165	期末	112

ポイント

- 営業C／Fは当社が目指す200億円レベルを確保できた。
- フリーC／Fはマイナス101億円となったが、借入と手許資金で賄った。
  その結果、キャッシュの期末残高は112億円となった。

※：営業活動によるC／Fと投資活動によるC／Fの合計

I-3. 2013年3月期決算

設備投資・減価償却費

（億円）

	2011年度	2012年度
リチウムイオン電池事業	305	249
海外事業	34	41
国内既存事業、その他	49	42
設備投資額　合計	388	332
減価償却費	112	133
内　リチウムイオン電池事業	40	60

GS YUASA

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

GS YUASA

II-1．2014年3月期 事業計画

経営の基本方針と事業重要課題

■ 経営の基本方針

- 既存三事業（国内自動車電池・国内産業電池電源・海外事業）の事業領域拡大と収益力強化
- リチウムイオン電池事業の事業基盤安定化

■ 事業重要課題

- 国内自動車電池のシェアアップと収益改善、エコカー需要取込み
- 国内産業電池電源の事業領域拡大、新製品の開発
- 中国、アジアの事業拡大
- リチウムイオン電池の市場競争力強化

II-1．2014年3月期 事業計画

（億円）

	2012年度 実績	2013年度 計画	増減
売上高	2,745	3,500	+755
営業利益	98	160	+62
利益率	3.6%	4.6%	+1.0P
経常利益	123	170	+47
当期純利益	58	100	+42
配当	6円/株	8円/株	+2円/株
2013年度前提条件	（鉛価格）　国内建値：26万円／t　LME：$2,300／t （為替レート）95円／$		

GS YUASA

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

セグメント別計画

（億円）

	2012年度		2013年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
国内自動車電池	556	39	590	40	+34	+1
国内産業電池電源	724	108	800	110	+76	+2
海外	1,199	64	1,660	85	+461	+21
リチウムイオン電池	106	-112	280	-75	+174	+37
その他	160	-1	170	0	+10	+1
合計	2,745	98	3,500	160	+755	+62

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

設備投資・減価償却費

（億円）

	2012年度	2013年度	増減
リチウムイオン電池事業	249	90	-159
海外事業	41	60	+19
国内既存事業、その他	42	100	+58
設備投資額　合計	332	250	-82
減価償却費	133	120	-13
内　リチウムイオン電池事業	60	50	-10

- 2013年度から機械設備の減価償却を7年定額法に変更する

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

国内自動車電池事業

■ 自動車バッテリーシェア（圧倒的No.1）を目指す

《拡販対象バッテリー》

- HEV補機用バッテリー
- アイドリングストップ車用バッテリー

2015年度目標

販売個数　900万個

シェア　40%

アイドリングストップ車対応補修用バッテリー
ECO. R　LONG　LIFE

■ 生産拠点の機能別集約による生産性の向上

II-2. セグメント別事業課題

国内産業電池電源事業

エネルギーソリューションに対する需要の高まり

①CO2削減に伴う省エネルギー化

②電力事情の変化に伴う安定供給への取り組み

③再生可能エネルギーの増加

■ 電力安定供給に貢献する製品の開発と拡販

カテゴリー	役割	製品
省エネ	建機、重機のハイブリッド化 回生電力吸収	リチウムイオン電池 鉄道用回生電力吸収装置
蓄エネ	周波数安定、ピークシフト 発電予備の確保	パワーコンディショナー リチウムイオン電池／鉛蓄電池
創エネ	太陽光発電／メガソーラー	パワーコンディショナー

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

国内産業電池電源事業

■ 太陽光発電用パワーコンディショナの生産能力拡大

年度	2012年度	2013年度	増加率
売上高	50億円	75億円	+50%

設備投資 5億円

■ 産業用リチウムイオン電池の本格的量産を開始

- リチウムエナジー ジャパンの京都工場をリフォームし、ハイブリッド鉄道車両などに使用される産業用リチウムイオン電池の本格的な量産を開始する。

リフォーム 3億円

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

海外事業（中国）

■ 中国における自動車電池生産の拡大

	2012年	2015年	2018年	手法
生産能力	550万個	950万個	1200万個	・天津拠点における新工場建設 ・順徳拠点におけるライン増設

設備投資 100億円（2013-18年　総額）

■ 中国における自動車電池販売シェアの拡大

【2012年 実績】
9%

+5p

【2015年 目標】
14%

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

海外事業（アセアン、他）

■ タイ拠点の子会社化

- サイアムGSグループを子会社化（2013年） ⇦ 投資 30億円

	売上高	営業利益
2012年実績	150億円	10億円

- メコン経済圏（ミャンマー、カンボジア、ラオスなど）の需要開拓

■ ベトナムにおけるオートバイ用電池生産の拡大

	2012年	2015年	2017年	手法
生産能力	600万個	900万個	**1300万個**	・新工場の建設

⇧ 設備投資 15億円（2013-17年　総額）

■ 新規新興マーケットの開拓

- 南米、中東、アフリカなど

GS YUASA

II-2. セグメント別事業課題

海外事業

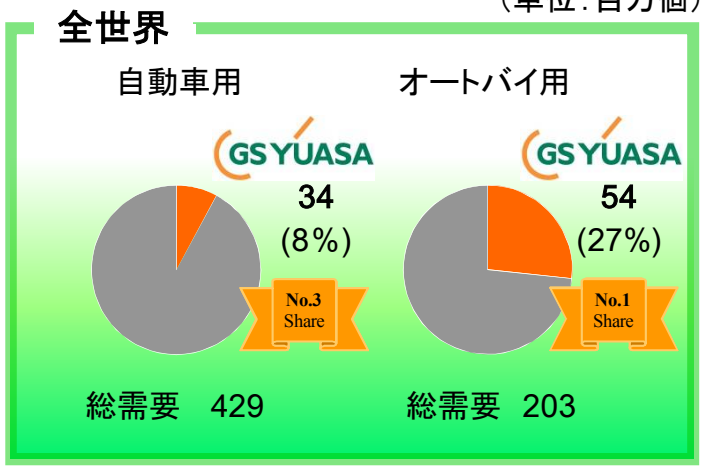
■ アジアを中心とする生産販売拠点

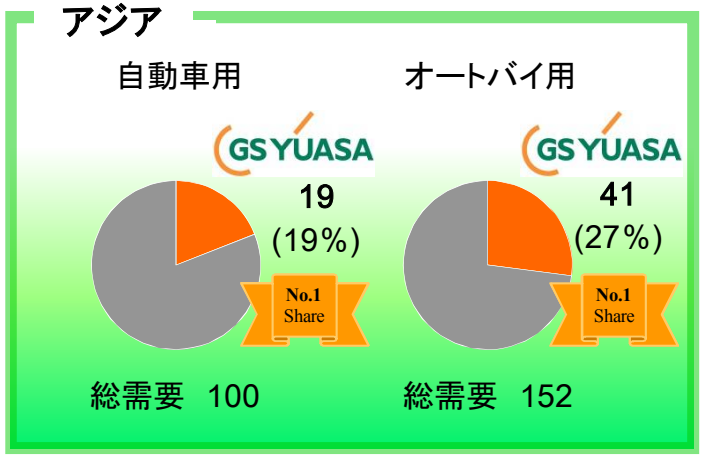
全世界 16カ国 36拠点

(2013年4月現在)

＜2012年度の総需要とシェア※＞

（単位：百万個）



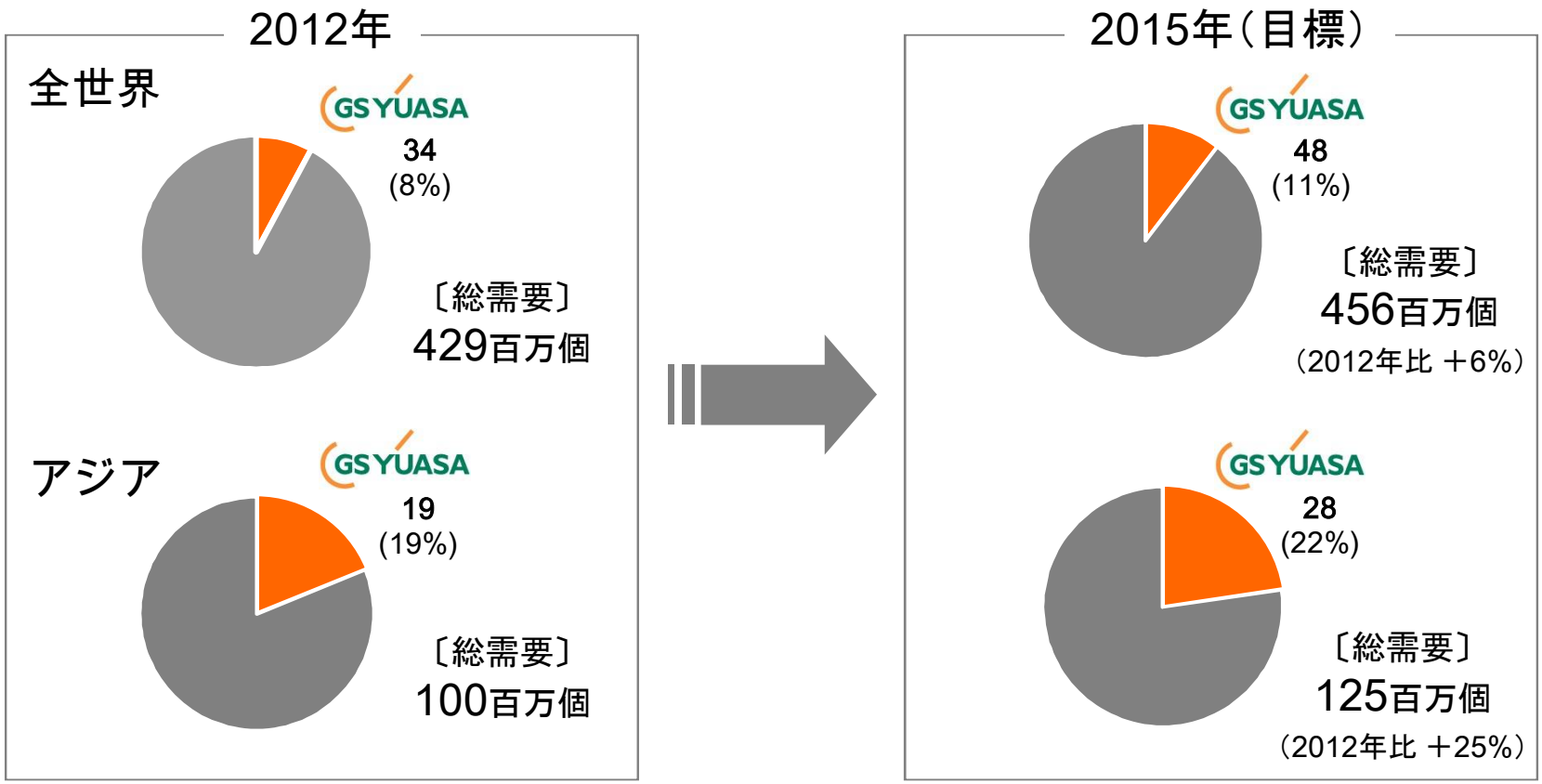


※： 当社推定値

II-2. セグメント別事業課題

海外事業　ー自動車用電池ー

■ 確固たる世界市場No.2の獲得、アジア市場No.1の堅持

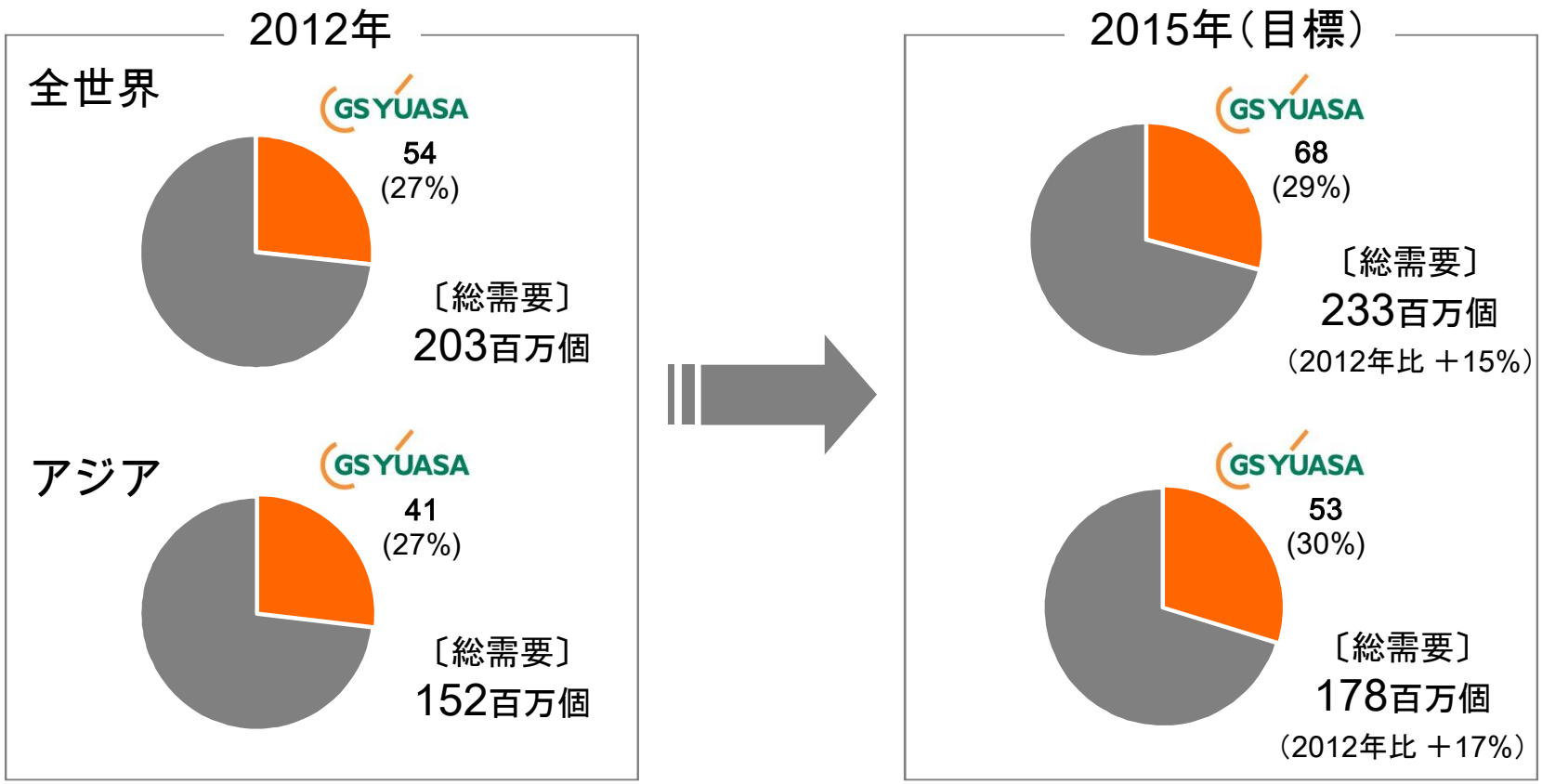


出典：当社推定

II-2. セグメント別事業課題

海外事業　ーオートバイ用電池ー

■ 世界市場、アジア市場におけるNo.1の堅持



出典：当社推定

II-2. セグメント別事業課題

リチウムイオン電池

■ グローバル化

- リチウム事業のグローバル化を推進し、自動車分野において基幹事業に成長させる。

  → 欧州市場への拡販を目指し、開発・マーケティング拠点を設立

■ 品質問題の早期解決

■ 黒字化への取り組み

- 売上を拡大し操業を改善、コストダウンを確実に実行し黒字化を目指す。

II-2. セグメント別事業課題

リチウムイオン電池

■ リチウムエナジー ジャパンの再構築

- 品質改善による重大クレーム撲滅
  → 早期解決のための資源投入

- 栗東工場の生産量確保
  → 欧州市場を中心としたグローバル展開で、既存設備の稼働率向上

- 収益改善
  → 生産量増加による、コストダウンの推進
  → 既存設備フレキシブル化による生産性向上

II-2. セグメント別事業課題

リチウムイオン電池

■ ブルーエナジーの生産拡大と収益性向上

- 搭載車種増加にともなう生産体制の拡充
  → 新車種や欧州規格に適合する新セル生産立ち上げ
  → 生産能力の引き上げ

年度	2012年度	2015年度
生産能力	400万セル	2500万セル

- 2013年度黒字化、2015年度累損一掃の実現
  →操業度向上による材料費低減および生産性向上

GS YUASA

目次

I. 2013年3月期度決算

1. 決算の概要
2. セグメント別業績
3. 貸借対照表・キャッシュフロー
   設備投資・減価償却費

II. 2014年3月期事業計画

1. 2014年3月期事業計画
2. セグメント別事業課題

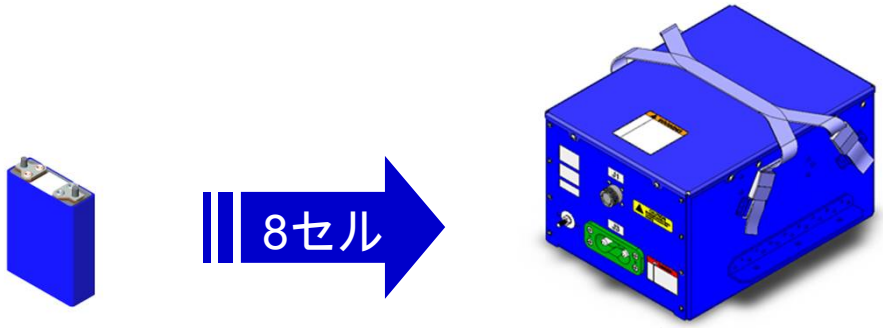
III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

GS YUASA

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

■ ボーイング787の事象についての状況

- 2013年1月事象発生以降、当社はボーイング、タレス、日米の関係当局に対する全面協力を継続的に行っている。
- 現時点、今回事象の真因はまだ究明されていない。
- ボーイングはセル設計の変更は行わず、バッテリー全般にわたる設計を強固にすることにより対策を行った。
- 新設計バッテリーによる試験飛行を行い、4月末に日米関係当局より商業飛行再開の認可を得た。
- 本事象による当社業績に対する影響は軽微である見込み。



セル　　バッテリー

GS YUASA

III. ボーイングおよび三菱自動車の事象について

■ 三菱自動車の事象についての状況

- 2013年3月の事象発生以降、三菱自動車、当社およびリチウムエナジー ジャパンは対策チームを結成し、事象発生の調査および対策に取り組んできた。
- 三菱自動車は近日中にリコールを発表し、今後の対応方法について明確にする予定である。
- リチウムエナジー ジャパンは対策を盛り込んだ製品の生産および出荷を、6月より再開する見込み。
- 本事象による当社業績に対する影響は精査中である。

GSユアサ コーポレートスローガン

Next to you

エネルギー、環境社会での技術革新が進むなか、
電池技術を通じて社会のニーズに応え、企業価値
の最大化を追求します。

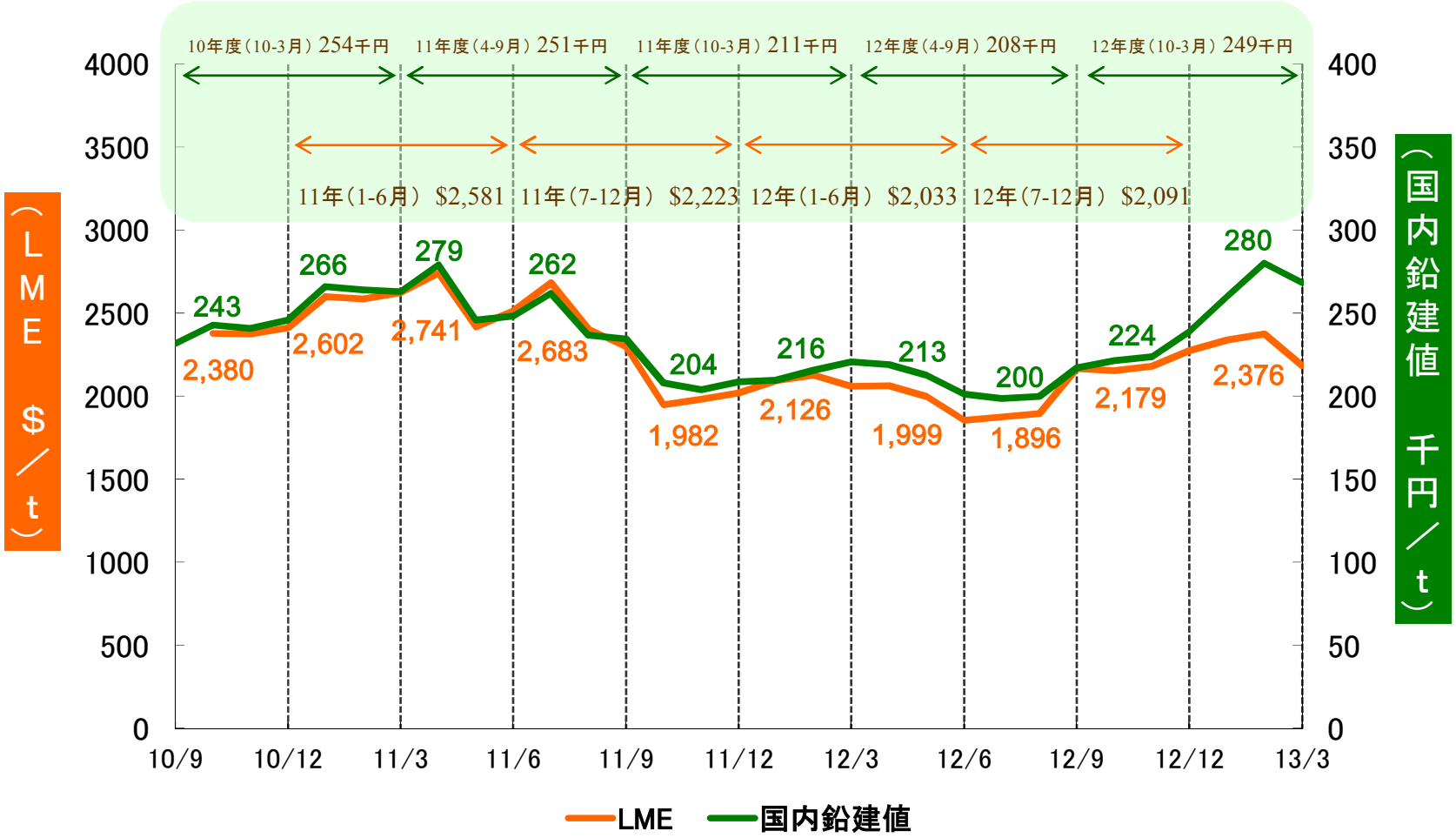
この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

連絡先

株式会社 ジーエス･ユアサ コーポレーション
広報室　中野 宏治　・　山本 靖志
Tel : 075-312-1214
http://www.gs-yuasa.com/jp

参考資料

原材料価格の推移・前提条件



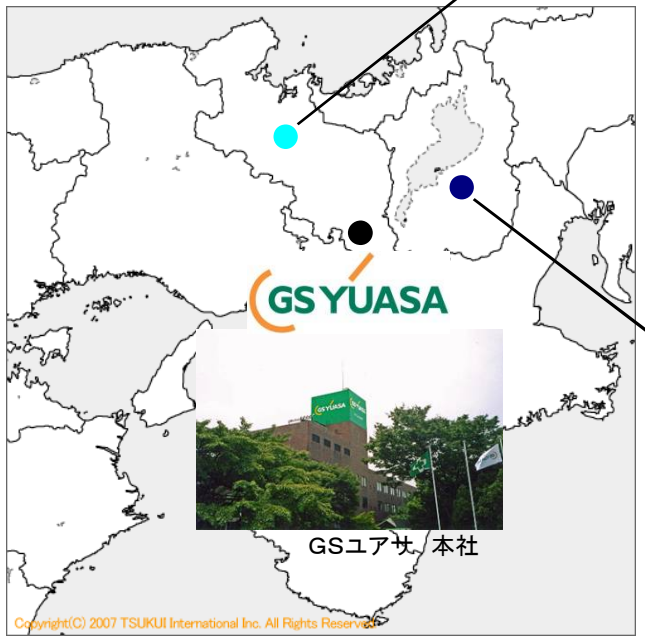
13年度前提条件		
	LME	$2,300／t
	国内鉛建値	260千円／t

足元情報(5月15日現在)
LME $1,949 国内鉛建値258千円

GS YUASA

参考資料

車載用リチウムイオン電池 生産拠点



Blue Energy

長田野事業所

工場稼動　2011年2月

生産能力　200MWh／年

Lithium Energy Japan

栗東工場

工場稼動　2012年2月（第一）
2013年 夏（第二）

生産能力　2000MWh／年